

## 本棚プロジェクト

～すべての子どもたちが本に親しむことのできる環境を～

JPIC(一般財団法人出版文化産業振興財団)様より、本棚2基と本31冊を寄贈していただきました。本棚は、子どもたちと一緒に組み立てました。絵本や図鑑、人気の小説など様々な本が並んだことで、新しい本に興味をもつ子も出てきました。読み聞かせをするなど、子どもたちと一緒に本の世界を楽しんでいます。

本棚組み立て



完成！！

## 《今後の予定》

5/26(日) 13:30~15:30 総会 あごら視聴覚室予定

『子どもの育ちを考える学習会』2024年度

第1回 7/6(土) 「からだの権利について考える(仮題)」福岡性暴力被害者センターより

第2回 10/5(土) 「一緒に生きていった方がトク!」映画～お話～ワークショップ

NPO法人ぷかぷか高崎明さんをお招きして

第3回 3月 「『発達障害』という言葉はよく聞かれれば一言にふりまわされないために」

九州大学准教授 佐々木玲仁氏講演会

☆お料理教室・外遊び・他体験活動の機会など随時希望もお聞きしながら計画していきます。

※詳細は、HP,SNSにてご案内していきますので、時々チェックしてみてくださいね。



HP



TikTok

NPO(特定非営利活動)法人いとしま児童クラブ

〒819-1128

福岡県糸島市篠原東一丁目23番32号

☎092-332-0112 fax092-324-1701

mail: [itosima.jidou.c@gmail.com](mailto:itosima.jidou.c@gmail.com)

## 《NPO入会案内》

会費(年会費) 会員(個人・団体) 5,000円

賛助会員(個人・団体) 2,000円

※いとしま児童クラブは、会員の皆様の会費とご寄付で運営されております。

活動の主旨にご賛同頂ける方々の入会、寄付を募っております。

※みんなの居場所の利用にあたって、入会の必要はありません。

〈郵便振込口座〉01750-4-135011



特定非営利活動法人

いとしま児童クラブ



会報 No.3

2024. 3月発行



## 「みんなの居場所」2年目にむかって!!

2024年1月1日能登地震、2日羽田空港事故、3日北九州の火災と心が痛む災害が続きました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々、避難生活を余儀なくされている方々に心からお見舞い申し上げます。一日も早い日常生活に戻られるよう心からお祈りいたします。

さて、会員の皆様におかれましては、お元気で新しい年をお迎えのことと思います。お陰様で「みんなの居場所」は、毎日温かい昼食の提供も出来、こども達の元気な声がある居場所となっています。

助成金申請は、グリーンコープ生協、九州労働金庫とWAMの3か所から採択されました。

グリーンコープ生協の助成金は、昨年6月に開催しました九州大学准教授佐々木先生の講演「子どもが本当に居やすい居場所を創るために」と題して、11月23日はミュージシャンでマジシャン、翻訳家でもある大友剛さんをお招きして「マジックと音楽と絵本のコンサート」を開催。今年1月28日は沖縄から来て頂きました映画監督の仲村雅国さん、「Challenged～ある不登校の物語」の映画上映と監督との交流会を開催しました。

2024年度は九州労働金庫とWAMの助成金を使わせて頂き活動したいと考えています。学習会等にご参加いただきますことを心からお願いし、報告いたします。

## 『子どもの育ちを考える学習会 番外編!特別編!』

NPO法人ゆめ・まち・ねつと渡部達也・美樹さん講演会

「こどもまんがって?」～静岡県富士市より

生きづらさを抱えた子どもたちに寄り添い、ともに生きてきた渡部達也さん、美樹さんご夫婦の、20年にわたる活動の数々...

公的機関ではないからこそできる、でも並大抵ではない覚悟を持って取り組まれているその活動は、出会う子どもたちに必要なことを網羅していくうちに、次々と広がっていったようです。

「ねばならぬ」ではなく、まず「ありのままを」受け入れ、徹底的に子どもの側に立つその姿勢。富士市で本当に困窮している多くの子どもたちが、たっちゃんみっきいの元で自分を取り戻し、元気になっていったというその長年のゆるぎない実績は、周りの批判的な評価を変えていったようです。

3年前、富士市で子どもの権利条例が策定されたとき、達也さんは策定委員を依頼されました。

子どもの権利条例策定委員会でのたっちゃんの提言は、鋭く厳しいものでしたが、その提言を基にいった富士市に「市の本気度を感じた」と、渡部さん。策定委員の方々が、「冒険遊び場たごっこパーク」にも訪れ、直接そこに集う子どもの声を聴く機会を持ってくれたりもしたそうです。

冒険遊び場で、自分のやりたいことに、自分のタイミングで、自分のペースで、思いっきり取り組める子ども達の様子は、いつ見てもうらやましい限り。その中で何にも代えられない、生きる力を身につけていく姿はたくましくてまぶしい!

安心して人間関係がつけれる環境があれば、子ども達は自分の気持ちを具現化していくことができる。その力を持っている。そんなことを再確認させてもらい、居場所づくりの意味を考えさせられました。

児童精神科医の故佐々木正美先生は、子ども達には、こうしなさい、という父性性より、まず受容の母性性が欠かせない、それは「バランスではなく順序」だと言われていることも紹介されました。渡部達也さんの書籍があります。詳しくは是非こちらで♡(エイデル研究所)

「子どもたちへのまなざし～心情を想像し合い 積み重ねてきた日常 切れ目のない関係性」





